

韓国語推量表現の婉曲的用法に関する一考察

仲 島 淳 子

1. はじめに

韓国語の推量表現には代表的なものとして「-겠、-은/-는/-을 것 같다、-ㄴ/을 것이다」などがある。これら推量表現は時に婉曲的な用法で用いられることもある。推量表現としての意味や文法、会話での機能などについてそれぞれを比較した先行研究や、推量表現の婉曲的用法として個別に研究されたものがあるが、推量表現を用いた婉曲的用法全体を比較したものはない。そのため、推量表現の婉曲的な用法におけるそれぞれの違いについて考察を行う。

2. 先行研究

김미형(2000)は、韓国語の婉曲表現が言葉を軟らかくすることを基本概念として、文章範疇の婉曲表現を聞き手中心の婉曲表現、話者中心の婉曲表現、話者と聞き手以外の第三者中心の婉曲表現に分けている。まず、聞き手中心の婉曲表現は話者が聞き手に依頼をするとき、禁止や命令をするとき、良くないことに対し質問をするとき、相手の間違いや失敗を指摘するときに、聞き手の発話行為負担を減らす効果を持つとし、仮定表現「-면」、疑問表現「-할래?」、非常に小さいことを指す「좀」や「잠깐」、話者の考えを提示しながら相手を誘導する「-면 더 좋을 것 같은데」や「이렇게 하면 어떨까?」などをあげる。そして話者中心の婉曲表現は話者が自身の主張や陳述を行うとき、相手に断るとき、相手に恩恵を与えることになったとき、相手の行為で話者が恩恵を被る

ことになったときに、話者の行為に対する婉曲表現を通し、聞き手の発話行為負担を減らす効果を持つとし、「글쎄요, 잘 모르겠습니다만」、「제가 생각하기에 는 그래요」、「어떨까 싶은데」、補助動詞「주다」などをあげる。最後に第三者中心の婉曲表現には、文章叙述で「- 한다고 본다、- 라 할 수 있다、- 라고 생각한다、- 가 아닌가 한다、- 는 듯하다、- 듯 싶다」などをあげている。

성미선 (2009) は、韓国語の推測表現の丁寧化について、韓国語コーパスで推量表現の頻度数の分析を行い、意味機能の分析を通し婉曲語法として使われる表現を抽出しそれらの教授方法について提案をしている。婉曲語法として使われる推測表現の特徴として、①確信の度合いが高すぎたり低すぎたりしてはならない、②判断の責任が高すぎたり低すぎたりしてはならない、③判断の根拠が客観的で、論理的であってはならないとする。そして、丁寧化戦略として、①話者は聴者に選択の余地を与えなければならない、②話者は聴者に親密感を表現しなければならない、③話者は聴者に最小限の損害を与え、利益は最大化させなければならない、聴者の体面を維持するよう助けなければならないと定めている。「- 겠 -, - 겠 같다、- (으) 니가 보다、듯하다 / 듯싶다、- (으) 지 모르다、- (으) 니까 / - (으) 니가 싶다、- 텐데 / 테니」といった推量表現が主に婉曲機能を持つと述べている。「- (으) 니 것이다」については、推測というよりは断定に近いので婉曲語法としては発話されにくいと述べている。また、「- (으) 니가 보다、- 모양이다」についても確信が低いので婉曲語法としては使いにくいとしている。また韓国語教材に現れる推量表現の婉曲語法について、婉曲語法に対する説明がないことを指摘し、断り、意見、提案・依頼、評価及び遠回しに話す、という場面を設定した教育法案を提案している。具体的な場면을提示し、その場面で用いる推量表現を練習する構成となっているが、教材ではないため、授業を運営する教師の役割と技量に任せる部分が多い。そのため学習者自身が選択しやすい特徴の提示が求められる。

金善美 (2016) は、「- 을 것이」と「- 겠 -」の出現を決定する情報の登録領域について直示性¹⁾に焦点をあてて考察している。非直示的な知識による推量を表す平叙文においては「- 을 것이」の使用が自然で、「- 겠 -」の使用には

現場からの直示的な知識が関与すると述べている。「- ㄹ -」は、既存の一般知識にあらたに deictic な知識を付加して予測と推測を行うことで、「- 을 것이다」の場合も既存の直接知識から論理的な帰結を誘導するものではあるが、その際動員する知識が deictic な知識ではない、という点で「- ㄹ -」とは異なるものであるとしている。

양정 (2018) は、先行研究の結果をまとめ、韓国語の婉曲表現の特徴を次の通り 6 つ挙げている。①婉曲表現は一種の表現方式である、②婉曲表現は間接的で柔らかく、迂回的で含蓄的である、③コミュニケーションとして婉曲表現が使われる直接的な目的は、対話を積極的かつ肯定的な方向に引き出すためである、④特定の婉曲表現は自分と対応する直説表現や直説表現の意味が必ず存在する、⑤婉曲表現は本質的に一種の言語使用の方式であると同時に一種の言語行為である、⑥婉曲表現は日々新しくなる。そして、これらの特徴を受け、婉曲表現を次のように定義している。第一に、意思疎通を積極的で肯定的な方向に導き、第二に、直接的表現や意味伝達を避けて間接的、迂回的に柔らかく含蓄的に表現する一種の語用方式と言語行為である。そして、日常会話のコミュニケーションでよく使われる婉曲語彙及び句や節を韓国語教育用婉曲表現とし、推量表現が婉曲表現のひとつとしてよく用いられると述べ、「- 는지도 모르다 - ㄴ / 을 것이다, - 것 같다」を例に挙げている。推量表現の最も大きな特徴は曖昧さであり、そうした特徴のため弱化原理を活用した婉曲表現のひとつとしてよく用いられるとしている。

조가희 (2021) は、先行研究で扱われてきた「- ㄴ 것 같다」「- ㄹ 것 같다」「- 듯하다」「- 모양이다」「- 가 (나) 보다」といった推量表現について、2000 年以降に韓国語から日本語に翻訳された小説を研究対象として分析し、「- ㄴ 것 같다」「- ㄹ 것 같다」は語用論的な側面で、主語が話者である場合、自身の考えを遠回りに表現したり、あるいは主観的な感じを表現する時に多く用いられるため、他の推量表現より多く表れることを述べている。そして、「- ㄴ 것 같다」は「気がする」と最も多く表現され、次に「と思う」と表現されるものが多く、大部分が一人称と相手との対話文で見られ、自身の考えを断定的に話すことを

避け、遠回しに表現しているとしている。一方、遠回しに表現するために用いられる「-ㄴ 것 같다」は、日本語の婉曲表現「みたいだ」に対応しているとしている。

이상숙 (2024) は、これまでの推量表現に関する先行研究を概観した上で、意味と機能から推測表現の範疇を設定し、その中から「教育的価値」「教育的実用性」「教育的実際性」を考慮し、韓国語教育の現場で指導する推量表現を選定している。多くの推量表現が推測の機能に加え婉曲の機能を持つが、その理由は話者が自身の判断を不明確に表現することによって相手の体面を傷つけるのを防いだり、より丁寧に話すことができるためだと述べている。そしてそれら推量表現を、形態・統辞的特性と意味・語用的特性に分けて考察し、学習段階²⁾に応じ指導する推測表現項目を設定し、各段階の教授モデルを提案している。語用的特性で推量表現の婉曲機能については中級以降での教授を提案しているが、具体的な教授方法については触れていない。

3. 研究方法

研究対象となる韓国語の推量表現は、이상숙 (2024) の推量表現を基準とし、それぞれの婉曲的用法について考察する。その理由は、이상숙 (2024) で設定された教育用推量表現項目の選定基準による。教育的価値と必要性の判断基準を設定するにあたり、韓国の国立国語院「한국어교육 문법·표현 내용 개발 연구 (韓国語教育文法・表現内容開発研究)」を用い、이상숙 (2021) の韓国人の口語コーパス³⁾ 頻度分析結果を教育的実用性を補うための基準に、「국제 통용 한국어 교육 표준 모형 개발 2 단계 (国際通用韓国語教育標準モデル開発 2段階)」目録を基盤に韓国語教材での出現頻度が高いにも関わらず抜けていたり、韓国語能力試験項目に含まれているのに抜けている項目などを補充し、さらに現在の韓国語教育現場の内容を反映するために이상숙 (2021) の韓国語教材⁴⁾ の分析結果を追加で反映し教育用推量表現項目を選定している。以上の通り、「教育的価値」「教育的実用性」「教育的実際性」を考慮し、韓国語教

育の現場で指導する推量表現を選んでいるため相応しいと考える。

本稿で用いる推量表現の婉曲的用法は、양정 (2018) の婉曲表現の定義を踏まえ、次のように定義する。話者がコミュニケーションを円滑に進めようとする目的で、直接的な表現を避け推量表現を用い間接的に表現する語用的用法を推量表現の婉曲的用法とする。そして、本研究では前提として、話者が事実・結果を知りながら婉曲的に話している場面を対象とする。

研究方法は、이상숙 (2024) で設定された教育用推量表現項目で、語用的機能として婉曲の機能があるとされているものに加え、それ以外の推量表現も含め、韓国の国立国語院「국립국어원 비출판물 말뭉치 (버전 1.0)」の「국립국어원 일상 대화 말뭉치 2020 (버전 1.1)⁵⁾」(以下、母語話者コーパスとする)に現れる、実際の母語話者の用例を参考⁶⁾に、婉曲的用法の特徴を考察する。

4. 推量表現の婉曲的用法

表1は、이상숙 (2024) による推量表現項目と語用的機能として婉曲機能の有無、判断の視点、判断根拠制約、場面、各項目の推奨学習段階である。

이상숙 (2024, pp.17) は、すべての推測表現は、判断根拠を持っているとし、判断根拠は特性によって、「客観的、主観的」「直接経験、間接経験」「発話現場の経験、過去の経験」などに分けられると述べている。多くの推量表現が推量の機能に加え婉曲の機能を持つ理由として、話者が自身の判断を不確実に表現することによって相手のメンツを傷つけないようにしたり、より丁寧に話すことができるためであると述べている。そして推量表現の婉曲的用法については、断り・提案・反対・同意など多様な状況で使われるため、中級以降の学習者に対し婉曲の機能が現れる様々な状況を提示し、慣れさせるように教育しなければならないとしている。また、金善美 (2016) は、推量表現「-을 것이」と「-겠-」を非直示的、直示的という基準で使用形式が決まるとしている。こうした推量表現に関する特性を踏まえ、まず国立国語院の『표준국어대사전 (標準国語大辞典)』での解説を提示し(()内は筆者による翻訳。以下同じ)、

表1 이상속 (2024) の推量表現項目

No.	推量表現項目	婉曲機能の有無	判断の視点	判断根拠制約	場面	学習段階
1	-은/-는/-을 것 같-	有	過去 現在		口語 非格式	中級 1段階
2	-은/-는/-을 듯하-	有	過去 現在		文語 格式的	高級 1段階
3	-은/-는/-을 모양이-	無	過去 現在	現場知覚経験 直接経験不可	文語 格式的	高級 1段階
4	-은/-는/-을지 모르-	有	発話する現在	確実な根拠不可		中級 1段階
5	-을 것이-	有	発話する現在	直接・間接問わず過去経験	格式的	中級 2段階
6	-을 터이-	有	発話する現在	過去経験		中級 2段階
7	-은/-는가 보-, 나 보-	無	発話する現在	現場知覚経験 話者の直観や感覚は判断根拠不可	口語 非格式	中級 2段階
8	-을까 보-	無	発話する現在	確実な根拠不可		中級 2段階
9	-겠-	有	発話する現在	現場知覚経験 直接経験不可		中級 2段階
10	-은/-는지	無	過去 現在	現場知覚経験		中級 1段階
11	-을까	有	発話する現在	確実な根拠不可	口語 非格式	中級 2段階
12	-을걸	有	発話する現在	過去経験	口語 非格式	中級 1段階

それぞれ婉曲の用法を考察する。

4.1 -은/-는/-을 것 같-

『표준국어대사전』の解説

4. ((‘-ㄴ/는 것’, ‘-ㄴ/을 것’ 뒤에 쓰여)) 추측, 불확실한 단정을 나타내는 말. (推測、不確実な断定を表す言葉)

국립국어원 (2005) では、「-은/-는/-을 것 같-」が主に話者自身の主体的で主観的な経験、知識を根拠にして推測する時に用い、強く主張したり断定的に

話さず少し柔らかく或いは謙遜してそして消極的に話す感じがあるとし、外国人らが自身の考えを話すときよく使う表現のひとつだが、使い過ぎると自然ではなくなるので注意しなければならないと指摘している。連体形の使い分けについては、「- (으)ㄴ 것 같다」は直接的な根拠に押され強い確信を持って推測する意味を表す反面「- (으)ㄴ 것 같다」は漠然と、或いは間接的な根拠で推測する意味を表すとしている。이상숙 (2024) でも、「-은/-는/-을 것 같-」は判断主体に対する制約はないため、他の推量表現より使いやすく、確信の程度が高くないことにより婉曲表現として非格式的な状況、かつ口語で多く用いられると述べている。判断根拠は新聞記事や天気予報、本などのような信頼性が高い客観的な情報よりは主観的なものがより自然であり、専門的、公式的、学術的な状況ではあまり使われず、婉曲の機能としては、断り・提案・反対・同意など多様な状況で使われるため、学習者に婉曲の機能が現れる状況を多用に提示し婉曲の機能に慣れるよう教育しなければならないと述べている。

- (1) a. 제 생각에는 옷이 좀 |큰 것 같아요/*클 거예요/*크겠어요|. (私が思うにちょっと服が大きいようです)
 b. 교수님, 내일 수업에 못 |올 것 같습니다/못 올 거예요|. (教授、明日授業にこれそうにありません)

(이상숙 2024, pp.99 より引用)

(1) a. は「服が似合っていない」という話者の考えを遠回しに表現している場面で、直示的情報による判断である。もし「服が似合っていない」という婉曲の用法としてではなく、実際に大きな服を買おうとしている聞き手に対し、それは大きいだらうと言う場面であれば「-을 것이-」、 「-겠-」も使用可能である。また、(1) b. は「明日は学校に来れない」という断りを目上の人に伝達するとき事実をそのまま伝えるのではなく可能性があると表現することで丁寧さを表している。「-은/-는/-을 것 같-」の代わりに「-을 것이-」を使うと丁寧さの意味は感じられなくなると述べている。

- (2) a. 앞으로 당분간은 여행을 좀 다니기가 어려울 것 같아요. (今後当分の間は旅行に行くのがちょっと難しそうです)
- b. 저는 반대로 겨울을 더 싫어하는 것 같아요. (私は逆に冬のほうが嫌いなようです)
- c. 내가 생각하는 취미의 가장 주된 목적은 자기만족인 것 같아. (私が考える趣味の最も主な目的は自己満足だと思う)

(2) a.は旅行に行けない事実について推量表現を用いることで柔らかく伝えている場面であり、(2) b.は夏より冬を好むと言った聞き手に対し、自分は逆であることを柔らかく述べている場面である。(2) c.は聞き手から趣味の中で最も実用的だと思う趣味はどんなものがあるか尋ねられ、話者が趣味は読書や勉強以外は特に助けになるものはなく、趣味の目的というものは自己満足であるという自身の考えを柔らかく述べる場面である。いずれも現時点までの自身が経験した事実や、経験から主観的に判断した結果を婉曲的に聞き手に伝える状況である。「-은/-는/-을 것 같-」は、これら断りや反対だけでなく提案や同意など、母語コーパスで様々な場面で婉曲的用法として用いられていた。それは、他の推量表現に比べ、制約が少ないことによる。成昊炫(2016)は、「-은/-는/-을 것 같-」について、話者の直接体験情報や他人または第三者から得た間接的情報といった実在的根拠に基づいた認識判断に用いられるという「証拠性判断」の意味を持つとしている。

まとめると、「-은/-는/-을 것 같-」の婉曲的用法は、話者自身が経験した直示的・非直示的情報の両方により、主観的な判断を聞き手に柔らかく伝える場合に用いる。

이상숙(2021)によると、推量表現項目にあげたそれぞれの口語コーパスでの使用頻度は「-은/-는/-을 것 같-」が最も高く40.24%、次に「-겠-」が28.65%、「-을 것이-」が10.68%で、これら3つの表現で全体の約80%を占めることになる。そのため、以降の表現項目は「-은/-는/-을 것 같-」、「-겠-」、「-을 것이-」との比較を中心に、必要に応じ他の表現項目とも比較しながら考察

を進めていく。

4.2 -은/-는/-을 듯하-

『표준국어대사전』の解説

((동사나 형용사, 또는 ‘이다’의 관형사형 뒤에 쓰여))

앞말이 뜻하는 사건이나 상태 따위를 짐작하거나 추측함을 나타내는 말.
≒듯싶다. (前の言葉が意味する出来事や状態などを推し量ったり推測することを表す言葉)

국립국어원 (2005) では、「-은/-는/-을 듯하-」について「-은/-는/-을 것 같다」と同じく自身の考えや気持ちを柔らかく表現する時にも使用するが、次の例文のように2つの表現には差があると述べている。

(3) a. 그 일을 수미가 말을 듯해요.

b. 그 일을 수미가 말을 것 같아요.

(국립국어원 2005, pp.786 より引用)

(3) a.は、直接的な根拠がなく漠然と推測する時、可能性はあるが不確実性があるときに用い、(3) b.は自身の経験や何かの根拠によって推し量って推測したり、確信があっても少し慎重に話そうとするときに用いる傾向が大きいとしている。

(4) 지금 출발하시는 게 {좋을 겁니다/좋을 것 같습니다/좋을 듯합니다/좋을 듯 싶습니다}.

(이상숙 2024, pp.103 より引用)

(4)で「-을 것이-」は話者が断定的に確信を持って話すため、婉曲の機能は持たないが、それ以外は強度の差はあるがすべて自身の意見を柔らかく表現

する婉曲の機能を表しているとし、「-은/-는/-을 듯하-」は口語より文語で、そして「-은/-는/-을 것 같-」より格式的な状況で、大きな制約なく婉曲表現として使えると述べている。

- (5) a. 연애하고 있는 여성의 말을 들어보면 그렇지도 {않은 듯한다/않은 것 같다/*않을 것이다/*않겠다}. (恋愛している女性の話を聞いてみたら、そうでもないようだ)
- b. 깜짝 놀라서 말이 안 {나오는 듯해요/나오는 것 같아요/*나올 거예요/*나오겠어요}. (とても驚いて言葉が出ないようです)

(5) a.は「話を聞いてみたら、そうではなかった」という非直示的信息による話者が過去に経験した事実が前提である。直接的な根拠である。これは「-은/-는/-을 것 같-」に置き換えが可能で、その場合より柔らかく丁寧な印象を与える。一方、(5) b.は「とても驚いて言葉が出ない」目の前の第三者の直示的信息による事実が前提で、「-은/-는/-을 듯하-」を用いると、あくまでも推量の意味となり、婉曲的用法とはならない。そして、(5) a.b.共に「-을 것이-」「-겠-」は、婉曲的用法として使用できない。

以上のことから、「-은/-는/-을 듯하-」の婉曲的用法は、直示的信息には使えず、非直示的信息による話者が過去に経験した事実を聞き手に伝える場合に可能であり、口語ではなく文語で用いる。

4.3 -은/-는/-을 모양이-

『표준국어대사전』の解説

((‘모양으로’ 끌로 쓰이거나 ‘이다’ 와 함께 쓰여)) 짐작이나 추측을 나타내는 말. (推量や推測を表す言葉)

이상숙 (2024, pp.107) は、「-은/-는/-을 모양이-」は婉曲の機能を持たないとしている。その理由として、婉曲的というのは話者の判断が間違っている

かもしれないという態度を見せなければならないが、「-은/-는/-을 모양이-」は話者が客観的な態度を持って判断しているためと述べている。성미선(2009)も、「-모양이다」については、客観的な判断を見せる表現なので婉曲語法として発話されにくいと述べている。しかし次の文を見てみよう。

(6) 깜짝 놀라서 말이 안 나오는 모양이에요/나오나 봐요/나오는 것 같아요.
よ.(とても驚いて言葉が出ないようです。)

(6)は、「とても驚いて言葉が出ない」目の前の第三者の直示的信息による事実を、推量表現を用いて聞き手に伝えている場面である。(5) b.で確認した通り、「目の前でびっくりして驚いている」という直示的信息による事実が前提で「-은/-는/-을 것 같-」は婉曲的用法として使えることについて述べたが、こちらは「-은/-는/-을 모양이-」「-나 보-」と言い替えが可能である。「-은/-는/-을 것 같-」は主観的な判断に用いられるが、「-나 보-」も視覚的な情報から主観的に判断したニュアンスを与える推量表現である。先行研究では「-은/-는/-을 모양이-」は状況から客観的に判断したニュアンスを与えるため婉曲の機能を持たないとされ、表1の通り이상숙(2024)は「-은/-는/-을 모양이-」を直接経験不可の推量表現に分類している。しかし、(6)では、目の前の第三者の直示的信息による事実を「とても驚いて言葉が出ないです」と断定するのではなく、「-은/-는/-을 모양이-」で「とても驚いて言葉が出ないようです」と曖昧に表現し、柔らかさを出す婉曲的な用法が可能である。ただし、動作主が聞き手である場合は、どうやら驚いて言葉が出ないようだという推量の意味でしか使用できない。

以上のことから、「-은/-는/-을 모양이-」も現場からの直示的信息による第三者に関する事実を婉曲的に伝える場合に用い、その婉曲的用法は客観的なニュアンスを表す。

4.4 -은/-는/-을지 모르-

『표준국어대사전』の解説

「1」((의문사 없이 쓰여)) 불확실한 사실에 대한 짐작이나 의문의 뜻을 나타낸다. (不確実な事実対する推量や疑問の意味を表す)

이상숙 (2024, pp.111) では、이기중 (1996) の「-은/-는/-을지 모르-」は確信の程度が低く断言的な感じが控えめなため婉曲機能として良く使用されるということを引用しているが、具体的な例はなく具体的な婉曲機能に関する説明もない。

- (7) a. 제가 너무 {무례했는지 몰라요/무례했던 것 같아요/무례했을 거예요/*무례했겠어요}. (私があまりにも無礼だったかもしれません)
- b. 지금 가면 너무 {이를지 몰라요/이를 것 같아요/*이를 거예요/*이르겠어요}. (今行ったらあまりにも早いかもしれません)

(7) a. の「-은/-는/-을지 모르-」は話者自身が無礼を働いた事実を直接的に話すのを避けることを現場で判断し、推量表現を用いることで柔らかさを出そうとしている。この文は「제가 너무 무례했던 것 같아요.」に言い替えが可能であるが、「-은/-는/-을지 모르-」を用いたほうがより丁寧な印象を与える。そして「-을 것이-」の場合、自分自身の過去の無礼を振り返り、確信している印象を与え、婉曲的な印象は弱くなる。(7) b. は「今行ったらあまりにも早い」という前提で、「-은/-는/-을지 모르-」はそろそろ出発しようと言う聞き手に対し、あるいは外出予定の話者にまだ出ないと尋ねる聞き手に対し、「今行ったらあまりにも早い」ため、「もう少し後」という提案や予定を現場で判断し遠回しに話している場面である。「今行ったらあまりにも早い」と断定する代わりに、推量表現を用いることで柔らかく聞き手の意見を否定している。こちらも「지금 가면 너무 이를 것 같아요」に言い替えが可能である。そして「-을 것이-」は、推量表現として使用することは可能であるが、婉曲

の用法としては使用できず、「-겠-」は非文である。

以上のことから、「-은/-는/-을지 모르-」の婉曲的用法は、話者自身の経験による非直示的情報から、現場で判断したことを柔らかく聞き手に伝える場合に用いる。

4.5 -을 것이-

『표준국어대사전』の解説

5. (('ㄹ'을 것이다' 구성으로 쓰여)) 말하는 이의 전망이나 추측, 또는 주관적 소신 따위를 나타내는 말. (話者の展望や推測、また主観的な信念などを表す言葉)

이상숙 (2024, pp.111) は確実性が高い表現であるため、「-은/-는/-을 것 같-」のように活発に婉曲表現として使えないとし、格式的な状況で勧誘や助言をするときによく使われるが相手の体面を傷つける反対や断りをしなければならぬ状況ではあまり使われないため、その点に留意して教育しなければならないとしている。また、判断の根拠は過去の話者による直接経験、間接経験となる特徴を示している。

- (8) a. 오늘보다 내일 떠나시는 게 더 {좋으실 것 같습니다/좋으실 겁니다}. (今日より明日発たれるほうが良いと思います)
 b. 죄송합니다.오늘은 제가 일이 많아서 만나기는 좀 {힘들 것 같습니다/?힘들 겁니다}. (申し訳ございません。今日は私が仕事が多くて会うのがちょっと難しそうです)
 c. 제 생각에는 그렇게 하면 {안 될 것 같습니다/*안 될 겁니다}. (私が思うにそのようにしたら駄目だと思います)

(이상숙 2024, pp.120 より引用)

- (8) a. は話者が自身の意見を丁重に表現する場合で「-은/-는/-을 것 같-」

と「-을 것이-」の使用が自然であるが、(8) b.c.のように相手の意見に反対したり断る状況では「-을 것이-」は使えないと述べている。

(7) b. 지금 가면 너무 {이를지 몰라요/이를 것 같아요/*이를 거예요/*이르겠어요}. (今行ったらあまりにも早いかもしれません)

(9) 그 분은 우리 회사에서 가장 높은 {사람일 거예요/사람인 것 같아요/*사람이겠어요}. (その方はうちの会社でもっとも偉い人だと思います)

4.5で、(7) b.の「-을 것이-」は、推量表現として使用することは可能であるが、婉曲的用法としては使用できないと述べた。これは推量表現を用いることで柔らかく聞き手の意見を否定する場面であった。先行研究でも述べられている通り、相手の意見に反対するような場面では「-을 것이-」を婉曲的用法としては用いることはできない。一方、(9)は相手の意見に反対するような内容ではなく、前提として「その方が会社で一番偉い人である」という事実があり、それを聞き手に伝える際、はっきりと断定するのではなく推量表現を用いて婉曲的に話すことで柔らかさを出すことが可能である。(9)は「-은/-는/-을 것 같-」との言い替えが可能である。

『표준국어대사전』での解説に、主観的という言葉がある。しかし 국립국어원 (2005) では、「-(으)ㄴ 것이다」と「-겠-」との比較で、「-(으)ㄴ 것이다」は主にある客観的であっても一般的な事例に基づいて推測するとしている。(9)は誰もが知る事実、一般的な事実を根拠に話している場面である。そして、(5) b.で確認した通り、目の前の第三者の直示的情報による事実が前提の場合も、「-을 것이-」は婉曲的用法として使用できない。

以上のことから、「-(으)ㄴ 것이다」の婉曲的用法は、聞き手の意見に反対するような場面では使えず、非直示的情報による自身の経験をもとに、一般的な事実を婉曲的に聞き手に伝える場合に用いる。

4.6 -을 터이-

『표준국어대사전』の解説

「1」((어미 '-을' 뒤에 쓰여)) '예정' 이나 '추측', '의지' 의 뜻을 나타내는 말. (予定や推測、意志の意味を表す言葉)

- (10) a. 지금 출발하면 길이 {막힐 텐데요 / 막힐 것 같아요}. (今出発したら道が混むと思いますよ)
 b. 옷이 좀 {큰 것 같아요 / *클 텐데요}. (服がちょっと大きいと思います)
 (이상숙 2024, pp.129 より引用)

이상숙 (2024, pp.129) は、(10) a.は「あとで出発するのが良い」という話者の考えを遠回しに表現したもので、この時「-을 터이-」は婉曲の機能を持つが、(10) b.ように「服が似合わない」という話者の考えを遠回しに表現する時は「-을 터이-」は婉曲の意味を持ってないとするが、その理由については詳しく述べていない。いずれも話者の考えを遠回しに表現しようとしているが、違いは何だろうか。(10) a.は話者の過去の経験である非直示的信息から、客観的に今の時間帯は混むから、暗に「あとで出発するのが良い」と聞き手に伝えようとしている。そして、(10) b.の状況は話者が目の前の直示的信息により、あくまでも相手に服が似合っていないと判断した話者の主観である。このように話者の経験が過去なのか、現在なのか、そして情報が直示的なか非直示的なか、客観的なか主観的なかという違いがある。

- (11) 연애를 하고 있지 않다는 것을 {아실 텐데요 / 아실 것 같아요 / 아실 거예요 / *아시겠어요}. (母：恋愛をしていないということをご存じだと思いますが)

(11) は「私が恋愛をしていないことを聞き手が知っている」ということが前提である。話者の過去の経験に基づく非直示的信息から知る事実を聞き手に

婉曲的に伝えようとしている。母語話者コーパスから収集した「-을 터이-」の婉曲的用法はすべて(11)のように、話者の過去の経験による非直示的情報をもとに客観的に聞き手に伝えている内容であった。

以上のことから、「-을 터이-」の婉曲的用法は、非直示的情報による自身の過去の経験をもとに現場で客観的な判断をし、暗に何かを聞き手に伝える場合に用いる。

4.7 -은/는가 보-, 나 보-

『표준국어대사전』の解説

〔1〕((동사나 형용사, ‘이다’ 뒤에서 ‘-은가/는가/나 보다’ 구성으로 쓰여)) 앞말이 뜻하는 행동이나 상태를 추측하거나 어렵פות이 인식하고 있음을 나타내는 말. (前の言葉が意味する行動や状態を推測したり、かすかに認識していることを表す言葉)

이상숙 (2024) は、「-은/는가 보-, 나 보-」は婉曲の機能を持たないとしている。

- (12) a. 제가 말실수를 {했나 봐요/한 것 같아요/했을 거예요/*했겠어요}. 사과할게요. (私が失言したようです。謝ります)
- b. 발음이 조금 {다른가 봐요/다른 것 같아요/*다를 거예요/*다르겠어요}. 다시 한번 해 봅시다. (発音が少し違うようです。もう一度やってみましょう)

(12) a. は自身の失敗を認め相手に謝る場面であるが、「私が失言しました」とはっきり言わずに「私が失言したようです」と柔らかい表現を使い気遣いをしている。こちらは、「-은/-는/-을 것 같-」「-(으)ㄴ 것이다」への言い換えが可能である。(12) b. は相手のミスを「発音が少し違います」と指摘するのではなく、「発音が少し違うようです」と遠回しに指摘している場面であ

る。こちらは「-은/-는/-을 것 같-」への言い替えが可能であるが、「-(으)ㄴ 것이다」には言い替えることはできない。それは、4.5で見てきたとおり「-(으)ㄴ 것이다」は相手の体面を傷つけるような場面では婉曲的用法として使えないからである。このように、(12) a.b.ともに、「-은/는가 보-;나 보-」を婉曲的用法として用いている。이상숙 (2024) は、「-은/는가 보-;나 보-」の特徴として、話者が観察者としての役割をし、視覚を通じた知覚経験を判断根拠にするとしているが、その特徴を用いて推量だけでなく婉曲にも用いられているのである。

以上のことから、「-은/는가 보-;나 보-」の婉曲的用法は、話者が見たこと、つまり現場からの直示的情報を根拠に事実を婉曲的に聞き手に伝える場合に用いる。

4.8 -을까 보-

『표준국어대사전』の解説

「3」((동사나 형용사, ‘이다’ 뒤에서 ‘-을까 봐’, ‘-을까 봐서’ 구성으로 쓰여)) 앞말이 뜻하는 상황이 될 것 같아 걱정하거나 두려워함을 나타내는 말. (前の言葉が意味する状況になりそうだと心配したり恐れていることを表す言葉)

이상숙 (2024) は、「-을까 보-」が「-아서」と結合した「-을까 봐서」の形態でのみ推量表現として使われ、「-을까 보-」は婉曲の機能を持たないとしている。母語話者コーパスで収集したのもすべて「～かと思って」という推量表現でのみ使用されており、推測する内容は、話者の心配や疑心、問題に対する解決案といったものであった。

以上のことから「-을까 보-」は婉曲的用法を持たない。

4.9 -겠-

『표준국어대사전』의 解説

1. (('이다' 의 어간, 용언의 어간 또는 어미 '-으시-', '-있-' 뒤에 붙어)) ((다른 어미 앞에 붙어)) 미래의 일이나 추측을 나타내는 어미. (未來の事や推測を表す語尾)

국립국어원 (2005) は、話している当時の状況や状態を見て推測したり主張するときに用い、また、用言に接続し自身の考えや意見について気をつけて話すときに使うとしている。そして、「- (으) ㄴ 것이다」と比較し、「- 겠-」は、推量の意味を表す場合、話者自身の主観的な判断に基づき推測するときに使うと述べている。이상숙 (2024, pp.202) は、「- 겠-」が婉曲の機能で用いられる時、主語の制約はなく、寓言の様態表現を伴う場合、婉曲の機能を持つが、他の推量表現とは異なり「- 겠-」単独では使えず、「- 을 수 있겠 -, 으면 좋겠 -, 으면 되겠 -, 아야 되겠-」などのような他の様態表現と結合して使われるが、特に「- 으면 좋겠다」の場合、婉曲の機能と持つと同時に話者の希望、願望を表すと述べている。そして、推量の「- 겠-」は一般的な推量の機能以外に他人の感情状況を共感する機能と婉曲の機能を持つが、この3つは完全に分離され独立的な機能をするわけではないとしている。さらに「- 겠-」は発話現場に存在する根拠をパターンとして発話現場で即時に判断する時使用が可能なので「現場性」を「- 겠-」の有意味な資質と見ることができ、「- 겠-」は知覚的経験を判断根拠とするため、話者の推測や感覚を判断の根拠にできないと述べている。ただし、話者の直接経験を判断の根拠にすることができないとも述べている。(이상숙 2024, pp.71-75)

- (13) a. 주말에는 사람이 많으니까 월요일이 더 좋겠어요. (週末は人が多いので月曜日のほうが良いでしょう)
b. 주문하시겠어요? (ご注文なさいますか)

(이상숙 2024, pp.74 より引用)

(13) a. は週末ではなく月曜日がもっと良いであろうという推測の機能と共に断りという状況を柔らかく表現する婉曲の機能を持つが、(13) b. は推測の機能はなく婉曲の機能のみ持つ。「-겠-」単独では使えず、他の様態表現と結合して使われると述べていたが、いずれも単独で使用している。성미선 (2009) は、こうした婉曲は自身の考えや意見を慎重に話す婉曲表現とし、他にも「-겠-」については、「처음 뵈겠습니다, 잘 알겠습니다」のような慣用表現も婉曲表現のひとつであると述べている。

(14) a. 술은 해도 되는데 내 앞에서 담배는 안 켜으면 {좋겠어/ 좋을 것 같아요/* 좋을 거예요}. (母：お酒は良いけど、私の前でタバコは吸わないでほしい)

b. 아무거나 잘 먹는 사람이 더 {좋겠습니다/ 좋을 것 같습니다/* 좋을 것입니다}. (母：なんでもよく食べる人がもっと良いです)

(15) 어떤 것에 관한 유튜브인지 여쭙봐도 {되겠습니까/ 될 것 같습니다/* 될 것입니까}? (母：どんなことに関するユーチューブなのかお尋ねしてもいいでしょうか)

(14) は、理想の人を尋ねられた話者が「私の前ではタバコを吸わない人が良い」「なんでもよく食べる人がより良い」という内容を伝える場面で、「-겠-」に推量のニュアンスはなく、話者が「～が良い」という気持ちをダイレクトに話すのを避け、「-겠-」を用いて柔らかさを出す婉曲的用法である。金善美 (2016) は、「-겠-」の使用には現場からの直示的な知識が関与するとし、既存の一般知識にあらたに deictic な知識を付加して予測と推測を行うとしていた。逆に, 이상숙 (2024) は「現場性」と話者の直接経験を判断根拠にできないということが推量表現「-겠-」の特徴であるとしていた。そして、(14) の場合、自身の過去を振り返り、発話現場で即時に判断しているが発話現場に存在する根拠ではなく、自身の過去の経験という非直示的情報をもとに述べている。つまり、(14) のような婉曲的な用法で「-겠-」を用いる場合、目の前

の直示的な知識は関与せず、話者自身の過去の経験が関与しているのである。(15) は話者が聞き手に許可を求めている場面である。このような方法を、김미형 (2000) は聞き手中心の婉曲表現とし、聞く側の負担を減らし、相手が断る余地を作ってやると述べている。유혜령 (2010) は、「-겠-」について、命令や要請の発話状況で使うと「-겠-」の基本意味である「非確定」と「未確定」の意味が丁寧性と関連して発話行為を婉曲に遂行する機能をするとしている。本研究では前提を話者が事実・結果を知りながら話している場면을対象としているため、(15) のような許可を求める場面は研究対象ではないが、他にも「처음 뵈겠습니다, 잘 알겠습니다」のような慣用表現に用いられる「-겠-」の婉曲的な用法もある。これらはすべて、「現場性」という特徴があり、話者自身が非直示的情報によって現場で判断し、柔らかく伝える目的の婉曲的用法である。

以上から、推量表現「-겠-」の婉曲的用法は、話者自身の過去の経験という非直示的情報をもとに主観的な気持ちを伝える場合に用いる。

4.10 -은/는지

『표준국어대사전』の解説

1 ((‘있다’, ‘없다’, ‘계시다’ 의 어간, 동사 어간 또는 어미 ‘-으시-’, ‘-었-’, ‘-겠-’ 뒤에 붙어)) 막연한 의문이 있는 채로 그것을 뒤 절의 사실이나 판단과 관련시키는 데 쓰는 연결 어미. (漠然とした疑問があるまま、それを後ろの節の事実や判断と関連させるのに使われる連結語尾)

이상숙 (2024) は、「-은/는지」の婉曲機能については触れていない。しかし、국립국어원 (2005, pp.264) では、連結語尾を次の用法のように文の終結形のように使い相手に遠回しに尋ねるものであるとしている。

(16) a. 어떤 문제를 틀렸는지? (どの問題を間違えたのだろうか?)

b. 사이토 씨가 한국 음식을 잘 먹는지? (斉藤さんが韓国料理をよく食べ

るのだろうか)

(국립국어원 2005 より引用)

(16) a. は話者が間違えた事実を知っており、「어떤 문제를 틀렸어? (どの問題を間違えたの?)」とダイレクトに質問するのではなく、漠然と柔らかく質問している場面である。そして、(16) b. も「사이토 씨가 한국 음식을 잘 먹어? (齊藤さんは韓国料理をよく食べるの?)」と質問する代わりに「-은/는지」を用いることで、漠然と柔らかく質問している。

母語話者コーパスから収集した「-은/는지」はすべて (16) a.b. と同様に、全て話者が漠然と柔らかく質問する場面であった。本研究が対象とする話者が事実・結果を知らながら話している場面での使用はなかった。

以上から、推量表現「-은/는지」の婉曲的用法は、話者が漠然と「~だろうか」柔らかく質問する疑問の形でのみ現れ、事実や結果を婉曲的に伝える用法としては使用されない。

4.11 -을까

『표준국어대사전』の解説

((‘ㄹ’ 을 제외한 받침 있는 용언의 어간이나 어미 ‘-었-’ 뒤에 붙어))

「1」해할 자리에 쓰여, 어떤 일에 대한 물음이나 추측을 나타내는 종결 어미. (體で使われ、あることに対する疑問や推測を表す終結語尾)

이상숙 (2024) では、「-다고 (나) 할까?」「-지 않을까?」の形態で使われる場合を推量表現の項目での婉曲の機能に挙げているが、教育方法については触れていない。

(17) a. 아이가 좀 산만하다고나 할까? (子どもがちょっと落ち着きがないっていうか)

b. 너한테는 좀 어렵지 않을까? (君にはちょっと難しくないだろうか)

(이상숙 2024, pp.83 より引用)

이상숙 (2024) は「-을까?」を用いることで、話者のはっきりとしない判断を不明瞭に表現しており、このような話者の判断を表す場合の「-을까?」は婉曲の機能を持つとしている。(17) a.の場合、「子どもがちょっと落ち着きがない」と感じているが、それをはっきりと述べることを避け、(17) b.は「君には難しい」とはっきり伝えることを避けている。

(18) 저는 이렇게 보여주는 성격 그리고 어~ 약간 외향적인 성격이라고 해야 될까? (母：私はこんなふうに見せる性格で、えーっと…ちょっと外向的な性格って言えばいいのかな?)

(18) は母語話者コーパスから収集した「-을까?」の(17) a.と同様の用途であり、確かに「～と(でも)言おうか」と話者が遠慮がちにしているが「-을까?」は意志を表しており、推量表現ではない。

(19) 내가 생각하는 취미의 가장 주된 목적은 {자기만족이 아닐까/ 자기만족인 것 같아/ 자기만족일 거야/*자기만족이겠어}? (母：私の考えでは、趣味の主な目的は自己満足なんじゃないでしょうか)

(19) は、母語話者コーパスから収集した「-을까?」の(17) b.と同様の用途である。動詞、形容詞、存在詞は「-지 않을까?」、指定詞は「-지 않을까?」と「-가/이 아닐까?」の形態で見られた。이상숙 (2024) は、これらも話者のはっきりとしない判断を不明瞭に表現しているとするが、はっきりとしていないのではなく、(17) b.は「難しいと思う」(19)は「自己満足だと思う」という話者の主観的な判断を聞き手に配慮し、はっきりと述べることを避け、「-지 않을까?」「-가/이 아닐까?」といった否定疑問を用いて遠回しに述べているのである。話者の主観的な判断を聞き手に配慮する目的なので、(17) b.は「너

한테는 좀 어려울 것 같아. (君にはちょっと難しいと思う)」のように「-은/-는/-을 것 같-」に言い換えが可能であるが、「-을까?」の否定がより丁寧さを表している。このことについては、유혜령 (2010, pp.396) でも、命題を断定せず不確実に推測する表現や言葉の終わりを濁す表現よりも、命題全体を否定する表現は話者から命題との距離を最も遠くする方法であり、そのような理由で否定文の形式が含まれた形態・統辞的丁寧表示が他の丁寧表示に比べ丁寧の程度性が最も高く感じられるものとみられると述べている。

以上から、推量表現「-을까?」の婉曲的用法は、「～ではないだろうか」という否定疑問の形でのみ現れ、非直示的情報による話者自身の主観的な判断を婉曲的に聞き手に伝えたい場合に用いる。

4.12 -을걸

『표준국어대사전』の解説

「1」((‘ㄷ’을 제외한 받침 있는 용언의 어간이나 어미 ‘-았-’ 뒤에 붙어)) (구어체로) 해할 자리나 혼잣말처럼 쓰여, 화자의 추측이 상대편이 이미 알고 있는 바나 기대와는 다른 것임을 나타내는 종결 어미. 가벼운 반박이나 감탄의 뜻을 나타낸다. (해體や独り言のように使われ、話者の推測が相手がすでに知っていることや期待とは異なるものであることを表す終結語尾。軽い反論や感嘆の意味を表す)

이상숙 (2024) では、「-을걸」は聞き手の反応を期待する推量表現で、婉曲の機能も持つと述べているが活発に使われないとし、例文等の提示もない。

(20) 그건 명절 때 {줬을걸/준 거 같아/*줬을 거야/*줬겠어}. (母:それは名節のときあげたと思うよ)

(20) は話者が「名節に何かをあげた」事実が前提である。聞き手の発言、あるいは質問を受け、それに対する反論、あるいは返答を行う際、推量表現を

用いることで断定を避け、相手に同意などの反応を期待している。今何かを見たり聞いたりして判断しているのではなく、話者が過去に見たり聞いたりした非直示の情報による。「-은/-는/-을 것 같-」に言い換えが可能であるが、「-을 것이-」に言い替えると、婉曲の意味はなくなってしまい自身の見立てをより強く提示する印象となってしまう。そして「-겠-」は非文となる。

以上のことから、「-을걸」の婉曲的用法は非直示の情報による判断による推量表現を用い、聞き手に同意などの反応を期待する場合に用いられる。

本章で考察した推量表現の婉曲的用法の特徴についてまとめると表2の通りである。

表2 推量表現の婉曲的用法の特徴

No.	推量表現項目	婉曲的用法の有無	用法の特徴・使用場面
1	-은/-는/-을 것 같-	有	話者自身の直接経験による直示的・非直示の情報 主観的な判断 口語・非格式的で多用
2	-은/-는/-을 듯하-	有	話者自身の直接経験による非直示の情報 文語で・格式的状况で多用
3	-은/-는/-을 모양이-	有	現場性・直示的信息 第三者に関する事実 客観的なニュアンスを出す
4	-은/-는/-을지 모르-	有	話者自身の直接経験による非直示の情報・現場性 柔らかく伝える、丁寧な印象を与える目的
5	-을 것이-	有	非直示的信息 一般的な事実 聞き手の意見に反対するような場面では使われない
6	-을 터이-	有	話者自身の過去の直接経験による非直示の情報・現場性 客観的な判断 暗に聞き手に伝える
7	-은/는가 보-, 나 보-	有	直示的信息・現場性
8	-을까 보-	無	事実や結果の婉曲的用法を持たない
9	-겠-	有	話者自身の過去の直接経験による非直示的な情報 主観的（気持ちを伝える）
10	-은/는지	無	漠然とした質問にのみ婉曲的用法があり、事実や結果の婉曲的用法を持たない
11	-을까	有	非直示的信息 否定疑問形「～ではないだろうか」の形のみ 主観的な判断
12	-을걸	有	話者自身の過去の経験による非直示的信息 同意などの反応を促す

5. 終わりに

本稿では、韓国語の多様な推量表現について、それぞれの婉曲的用法の特徴を考察した。이상숙 (2024) が提示した推量表現項目を研究対象とし、各項目の婉曲的用法の有無、話者が推量表現を使用する際の情報が直示的か、非直示的か、話者自身の経験の有無、そしてその判断が主観的なものか客観的なものか、という観点から行われた。

まず、主観的な判断を婉曲的に伝える表現としては「-은 / -는 / -을 것 같다」が口語や非格式的な状況で最も使われており、それは制限が少ないことによる。話者自身の直接経験による直示的・非直示的情報ともに判断の根拠にしていた。そして同じく制限が少ないことでよく用いられる表現は「-은 / -는 / -을 듯하-」であり、話者自身の直接経験による非直示的情報を判断の根拠とし、文語で格式的な状況で使われる。現場性があり情報が直示的で客観的な判断を柔らかく表現するのが「-은 / -는 / -을 모양이-」、現場性があり話者自身の過去の経験による非直示的の情報から、事実を暗に伝えるのが「-을 터이-」、情報が直示的で現場での判断を柔らかく伝えるのが「-은 / 는가 보-, -나 보-」である。さらに「-을 것이-」は非直示的の情報による一般的な事実を婉曲的に伝える際用いるが、聞き手の意見に反対するような場面では使用できない。「-을까」も非直示的の情報による主観的な判断を婉曲的に伝える場合に否定疑問形でのみ使用でき、「-을걸」は話者自身の過去の経験による非直示的の情報で判断した内容を婉曲的に伝え聞き手の反応を促す場合に用いる。「-은 / -는 / -을지 모르-」は現場性があり、話者自身の直接経験による非直示的の情報により、自身の主観的な判断を柔らかく伝えたい場合や丁寧な印象を与える目的で用いる。「-렸-」は、話者自身の過去の直接経験による非直示的情報を根拠に主観的な判断で断りや気持ちを伝える場合に用いる。なお、「-을까 보-」「-은 / 는지」については、話者が事実・結果を知りながら話す場面において、婉曲的用法は確認されなかった。

이상숙 (2024) は「-은 /-는 /-을 모양이-」 「-은 /는가 보- 나 보-」 「-을
까 보-」 「-은 /는지」には婉曲の機能がないとしていたが、이상숙 (2024) で
提示された推量表現中、「-을까 보-」 「-은 /는지」を除く 10 個の推量表現で
婉曲の用法が確認できた。これら婉曲的用法については、先行研究でも述べら
れている通り、既存の教科書ではほとんど扱っていない。성미선 (2009) で教
育法案を提案しているが、本稿で扱った推量表現項目がすべて扱われているわ
けではなく、また、学習者の立場から見た指標となるものもないのが現状であ
る。日本語には婉曲的な表現が多くあり、日本語母語話者にとって婉曲的な語
用については馴染みがあるため、明確な判断基準が提示されると習得もスム
ーズになるはずである。本稿の研究結果をもとに、日本語母語話者の韓国語学習
者を対象に、推量表現の婉曲的用法を中心にした指導モデルの構築と日本語と
の対照分析を活かした語用的判断トレーニング、学習者が自ら判断基準を構築
できるようなチェックリストやフローチャートの開発などを今後の課題とした
い。

註

- 1) 発話現場から知覚などの直知（直接知識）により情報のアップデートが行
われるものを直示情報、すでに話し手に獲得済みのものを非直示情報とし
ている。
- 2) 初級、中級、高級をそれぞれ1段階・2段階にわけ、6段階で設定
- 3) 国立国語院「21世紀世宗コーパス」2011年配布版「現代口語形態分析コー
パス」
- 4) 서강 New 한국어 1-6, 서울대 한국어 1-6, 연세 한국어 1-6, 이화 한국어
1-6
- 5) 「国立国語院非出版物コーパス（バージョン1.0）」の「国立国語院日常生活
対話コーパス2020(バージョン1.1)」。2021年5月31日に公開の15個の主題、
13個の提示資料を対象に二人の話者が自由に対話した日常対話資料（計
2,739名の話者、対話当たり約15分、計500時間分）から作成されたコーパ
ス
- 6) コーパスからそのまま例文として引用したもののにのみ（ ）内の筆者訳前
に母：と表記し、語彙の誤りを修正した文や推量表現部分を変更したもの
については（ ）内に筆者訳のみ表記。

参考文献

- 金善美 (2016) 「韓国語の「-겠-」と「-을 것이」の出現を決定する情報の登録領域について－直示性の観点から－」『ありあけ：熊本大学言語学論集』熊本大学文学部言語学研究室、pp.41-58
- 田窪行則、金善美 (2009) 「韓国語と日本語のモダリティ表現の対照」『朝鮮半島のことばと社会－油谷幸利先生還暦記念論文集』明石書店、pp.300-314
- 국립국어원 (2005) 『외국인 위한 한국어 문법 2』 커뮤니케이션북스
- 국립국어원 (2021) 「국립국어원 일상 대화 말뭉치2020 (버전 1.1)」 국립국어원
- 김미형 (2000) 「국어 완곡표현의 유형과 언어 심리 연구」、『한말 연구』 제 7 호、한말 연구학회、pp.27-63
- 성미선 (2009) 『한국어 추측표현의 완곡어법 양상과 교육방안』 한양대학교 교육대학원 석사학위논문
- 양정 (2018) 『한국어 완곡 표현 연구』 박문사
- 유혜령 (2010) 「국어의 형태·통사적 공손 표지에 대한 연구」、『청람어문교육』 41, 청람어문교육학회, pp.377-409
- 이기중 (1996) 『국어의 짐작·추측 구문 연구』 한남대학교 박사학위 논문
- 이상숙 (2024) 『한국어 교육용 추측 표현』 역락

キーワード

推量表現、婉曲、直示的、直接経験